

ひまわり組 カイコの記録

R8年度 加賀保育園 ひまわり組（5歳児クラス）

いただいたカイコをひまわり組のみんなで世話をして育てました。小さな幼虫から日に日に大きくなっていく様子に興味津々の子どもたち。毎日いろいろな発見をしていました。

ひまわり組とカイコの約2か月の記録です。

① 5月11日。ひまわり組にカイコがやってきました。「え〜？どれどれ？」あまりの小ささに驚いていました。



②「これがカイコの食べる桑の葉です。」と紹介すると「それ、保育園にあるよ」と知っている子がいました！



③「この辺だったよ」と場所を教えてもらい、みんなで桑の葉探し。「これじゃない？葉の形が同じだよ」いろいろな木から見事桑の葉を発見！



④カイコの幼虫の動きを見ているうちに真似をしたくなりました。色画用紙で作った桑の葉を食べながらモソモソと動き、カイコになりきっています。



⑤5月18日。古高先生が来てくださり、カイコについて教えてもらいました。



⑥今は小さな幼虫だけど、こんな風に（繭）になるんだね。「ふわふわ〜」「気持ちいいね」



⑦葉の食べ跡やフンの大きさを比べています。「だんだん大きくなってきたね」



⑧5月27日。カイコの幼虫のところに何かあるのを見つけました。



「ウンチかな?」「違うよ」
「抜け殻じゃない?」「そうだね!」
古高先生の話やカイコの本を見たりして、『皮を脱いで大きくなる』ということを知っていたので、結びついたようです。



⑨6月2日。だいぶ大きくなってきたので、子どもたちも触れるように。つぶさないように優しく触っていました。



⑩6月4日。「あれ?みどりのウンチしているカイコがいるよ。」今までの黒いフンとの違いに毎日の観察の中で気が付きました。

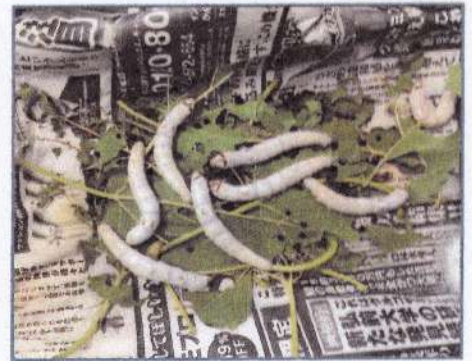


「具合悪いのかな?」「下痢じゃない?」子どもたちなりに考えたことを話していました。すると一人の子が「桑の葉、濡れたままあげちゃったんじゃない?それでお腹こわしちゃったんじゃない?」と言いました。エサの桑の葉を洗ってよく水気をふき取ってからあげていたのに、その経験から考えたようです。

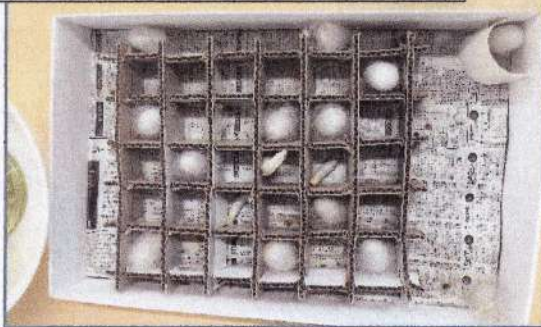
あとで調べると、本当に濡れた葉が原因でそうになってしまうことがあると知り、子どもの思考力に驚かされた保育者でした。



⑪ 6月4日。カイコが大きくなって、エサも大きな葉が必要になってきました。毎日「かわいい～」と言いながら観察したり葉をあげたりしていました。



⑫ 葉を食べずに頭を振っていたらカイコマンションへお引越し。一匹、また一匹と繭づくりを始めていきました。



⑬ 6月19日。繭になったカイコとしばらくお別れということをお話すると、「え～かわいそう」「蛾に育てたい」いろいろな意見が出ました。みんなで話した結果、3匹は蛾になるまで育て、あと(40匹ほど)は冷凍庫で凍らせることになりました。



⑭ 冷凍庫に入れる前に繭をじっくり触りました。「このまわりのフワフワな糸、もらってもいい？」絹糸の感触を味わっていました。



⑮ 7月3日。羽化した蛾を観察。「前はこんな形だったよね」と本を見ながらカイコの一生を振り返っていました。



⑯ 7月27日。「カイコ、どうなったか、見てみたい!」と子どもたちから声が上がったので見てみることに。「冷たい!」(冷凍庫から来たので)「気持ち悪い～」「ぶによぶによしてる」いろんな感想が聞かれました。



何をつくろうかな?

みんなで世話をしてきたカイコ。子どもたちの「殺しちゃかわいそう」という気持ちも受け止め、「ありがたく命をいただき、大切に繭を使わせていただこう」と伝えていきたいと思います。今年も貴重な経験ができました。ありがとうございました。